

平成29年11月11日 環境厚生・都市建設常任委員会

議会報告会の質疑応答の概要

【参加者】 病院事業会計について、医療費用の減価償却費はいくらか。

【委員】 8億9,591万円である。

【参加者】 病院事業会計について、欠損金は翌年度への繰越決算として考えてよいか。

【委員】 その通りである。次年度へマイナスとして繰越している。

【参加者】 歳入で自主財源が25億円減少している。その理由は何か。

【委員】 繰入金が約21億7,000万円、繰越金が約6億4,000万円、財産収入が約9,000万円、寄附金が約4,000万円、諸収入が約3,000万円それぞれ減少している。

【参加者】 一般会計から特別会計への操出金の経過や変化について伺う。

【委員】 特別会計はそれぞれの収支で賄うべきと考えるが、一般会計より特別会計への操出については議会報告会でもっと市民へ分かりやすい説明が必要と考える。

【委員】 平成28年度の一般会計からの操出金は約42億円あった。27年度と比べると約7億円減少している。公営企業会計は極力自前で経営ができるように議会としては行政に意見を述べている。

【参加者】 病院事業会計で欠損金の中に、今年発生した市立病院医薬品盗難事件の弁護士費用、裁判費用は含まれているのか。

【委員】 事件の発覚が平成29年度であるので今回の決算には含まれていない。

【参加者】 総合計画から比べると歳出全体で100億円くらい増加している。このことについて、議会としてはどのような認識なのか。

【委員】 個人としての回答となるが扶助費が想定外の増加となっている。これは国としても同じである。その部分が市に影響している。議員全員が扶助費の増加に対して懸念している。

【参加者】 公共下水道事業会計であるが、放流水や河川整備の費用及び進捗はどのようになっているか。

【委員】 収支としては純利益2億2,427万円程度であった。水洗化についての質疑があった。個別訪問で接続率が向上したが、まだ課題も残り、議会でも今後しっかりとチェックしていく。特定事業所の廃止についても質疑があり、水質検査も行い、効果の確認もしている。また、ポンプ場の増設の質疑もあった。今後も意見のあったことをしっかりと注視していきたい。